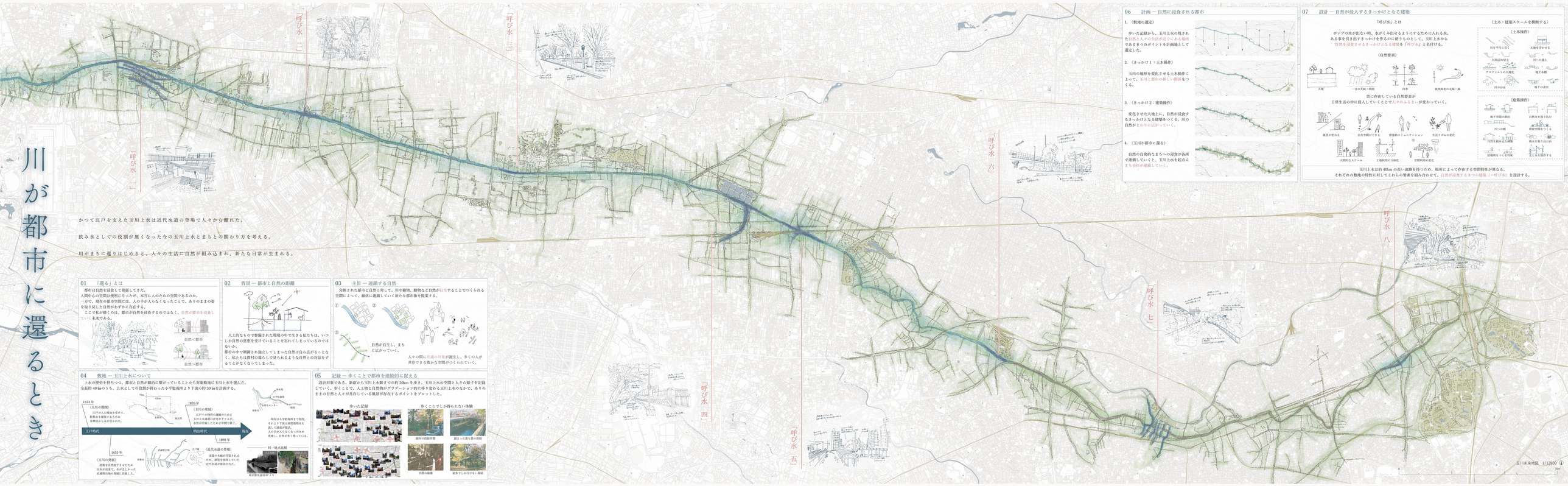
川が都市に還るとき

かつて江戸を支えた玉川上水は近代水道の登場で人々から離れた。

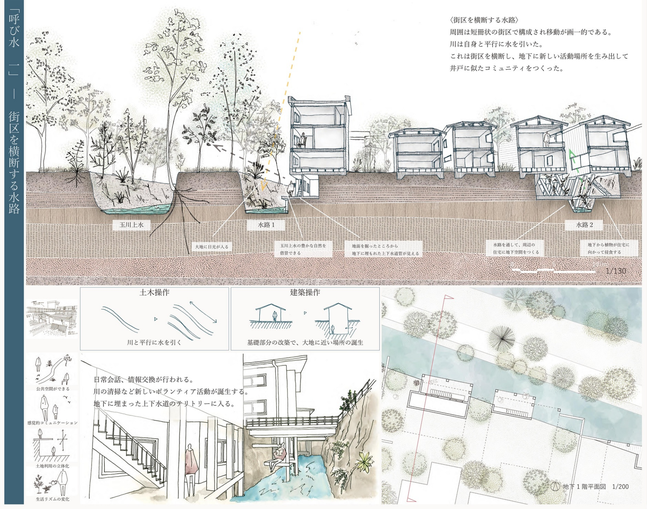
飲み水としての役割が無くなった今の玉川上水とまちとの関わり方を考える。

川がまちに還りはじめると、人々の生活に自然が組み込まれ、新たな日常が生まれる。



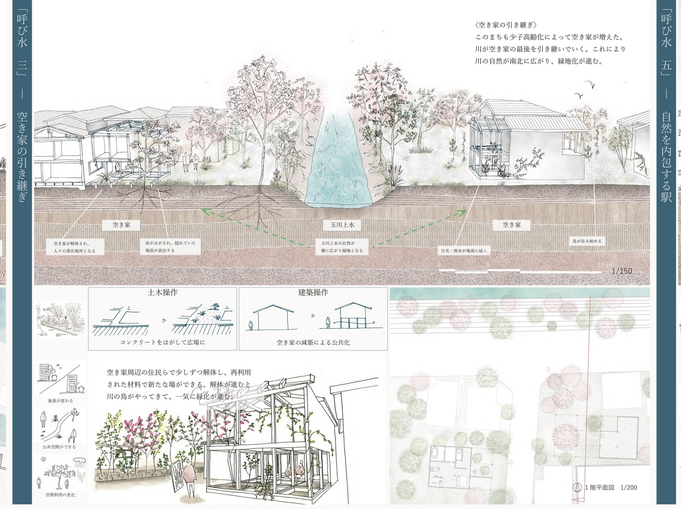
「呼び水 一」— 街区を横断する水路

〈街区を横断する水路〉
周囲は短冊状の街区で構成され移動が画一的である。
川は自身と平行に水を引いた。
これは街区を横断し、地下に新しい活動場所を生み出して井戸に似たコミュニティをつくった。



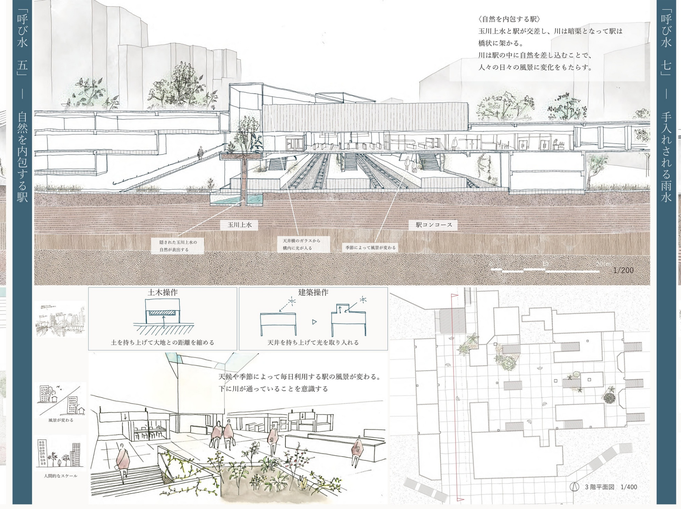
「呼び水 三」— 空き家の引き継ぎ

〈空き家の引き継ぎ〉
このまちも少子高齢化によって空き家が増えた。
川が空き家の最後を引き継いでいく。これにより
川の自然が周辺に広がり、緑地化が進む。



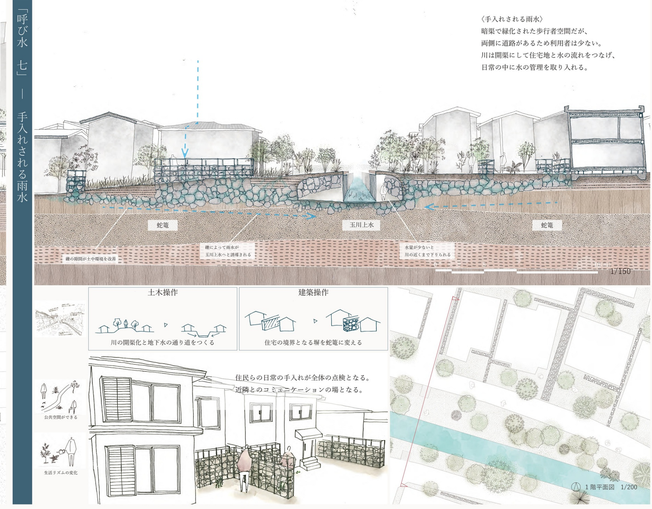
「呼び水 五」— 自然を内包する駅

〈自然を内包する駅〉
玉川上水と駅が交差し、川は暗渠となって駅は橋状に架かる。
川は駅の中に自然を差し込むことで、
人々の日々の風景に変化をもたらす。



「呼び水 七」— 手入れされる雨水

〈手入れされる雨水〉
暗渠で疑化された歩行者空間だが、
両側に道路があるため利用者は少ない。
川は開閉にして住宅地と水の流れをつなげ、
日常の中に水の管理を取り入れる。



06 計画 — 自然に浸食される都市

1. 〈敷地の選定〉

歩いた記録から、玉川上水の残された自然と人々の生活が近くにある場所である 8 つのポイントを計画地として選定した。

2. 〈きっかけ 1：土木操作〉

玉川の地形を変化させる土木操作によって、玉川と都市の新しい関係をつくる。

3. 〈きっかけ 2：建築操作〉

変化させた大地上に、自然が浸食するきっかけとなる建築をつくる。川の自然がまちに広がっていく。

4. 〈玉川が都市に還る〉

自然の自発的なまちへの浸食が各所で連鎖していくと、玉川上水を起点にまち全体が連結していく。

07 設計 — 自然が侵入するきっかけとなる建築

「呼び水」とは

ポンプの水が出ない時、水が くみ出せるようにするために入れる水。
ある事を引き出すきっかけを作るのに使うものとして、玉川上水から、
自然を浸食させるきっかけとなる建築を「呼び水」と名付ける。

〈自然要素〉

常に存在している自然要素が
日常生活の中に侵入していくことで人々のふるまいが変わっていく。

〈土木・建築スケールを横断する〉

〈土木操作〉

〈建築操作〉

玉川上水は約 40km の長い流路を持ったため、場所によって存在する空間特性が異なる。
それぞれの敷地の特性に対してこれらの要素を組みあわせて、自然が浸食するきっかけ建築（=呼び水）を設計する。

01 「還る」とは

都市は自然を浸食して発展してきた。
人間中心の空間は便利になったが、本当に人のための空間であるのか。
一方で、現在の都市空間には、人の手が入らなくなったことで、ありのままの姿を取り戻した自然がわずかに存在する。
ここで私が還りたい、都市が自然を浸食するのではなく、自然が都市を浸食していく未来である。

02 背景 — 都市と自然の距離

人工的なもので整備された環境の中で生きる私たちは、いつしか自然の恩恵を受けていることを忘れてしまっているのではないか。
都市の中で制御され独立してしまった自然は自ら広がることなく、私たちは農村の暮らしで見られるような自然との対話をすることがなくなってしまった。

03 主旨 — 連鎖する自然

分断された都市と自然に対して、川や植物、動物など自然が自生することでつくられる空間によって、線状に連鎖していく新たな都市像を提案する。

04 敷地 — 玉川上水について

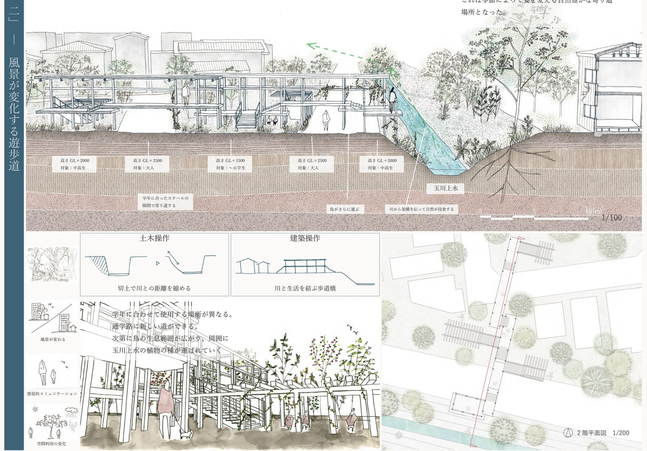
上水の歴史を持ちつつ、都市と自然が線的に繋がっていることから対象敷地に玉川上水を選んだ。
全長約 40km のうち、上水としての役割が終わったから平監視所より下流の約 30km を計画する。

05 記録 — 歩くことで都市を連続的に捉える

設計対象である、新宿から玉川上水駅までの約 30km を歩き、玉川上水の空間と人々の様子を記録していく。歩くことで、人工物と自然物がグラデーションが様に移り変わる玉川上水のなかで、ありのままの自然と人々が共存している風景が存在するポイントをプロットした。

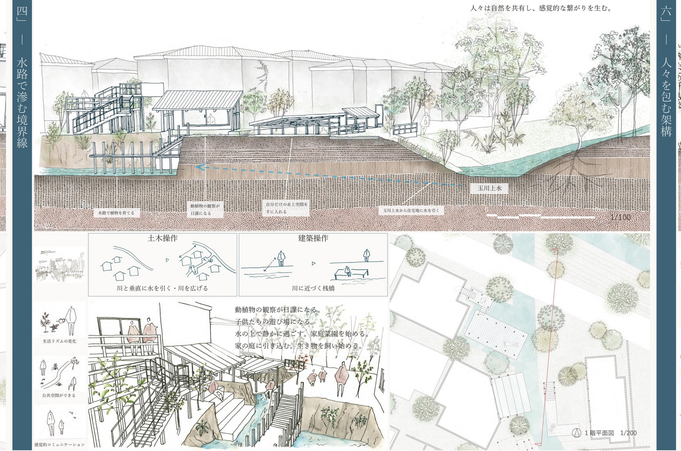
「呼び水 二」— 風景が変化する遊歩道

〈風景が変化する歩道橋〉
ここは多くの学校があり、学生らの通学路である。
川は仮設木で様々なスケールの空間をつくった。
これは季節によって変化する自然豊かな寄り道場所となった。



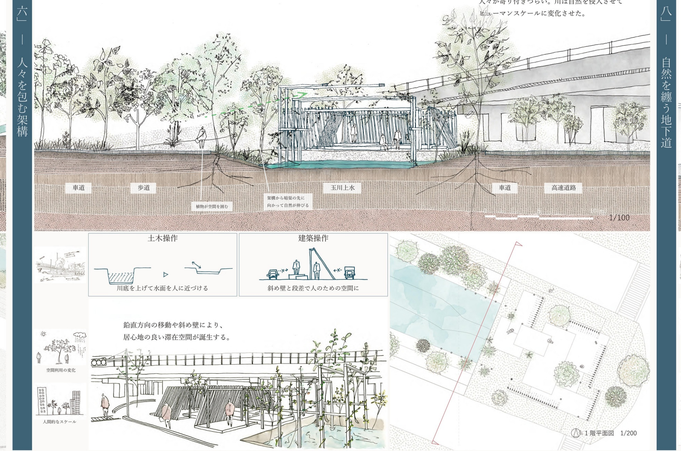
「呼び水 四」— 水路で滲む境界線

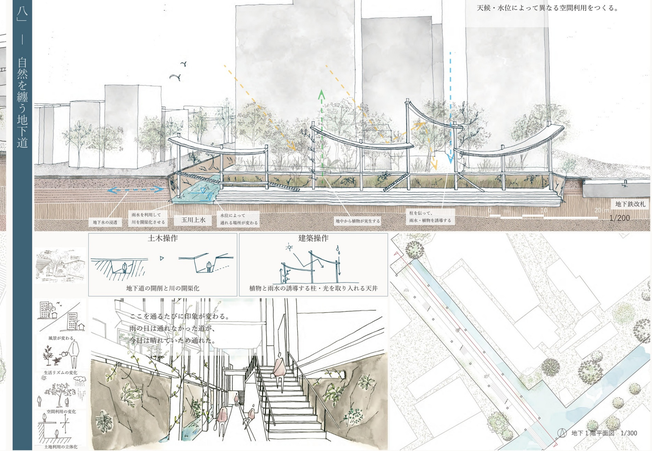
〈水路で滲む境界線〉
浄水場までの緑路線で現在は細長い公園である。
川は住宅地を分断するこの公園に水路を通すことで
人々は自然を共有し、感覚的な都が生む。



「呼び水 六」— 人々を包む架構

〈人々を包む架構〉
ここで玉川上水は暗渠となる。
高速道路や大通り同士の交差点に開まれ、
人々が寄り付きづらい。川は自然を侵入させて
ヒューマンスケールに変化させた。



「呼び水 八」— 自然を纏う地下道

〈自然を纏う地下道〉
地下鉄改札までの地下道がある。川は開開して
自然を侵入させ、時間による景観の変化や、
天候・水位によって異なる空間利用をつくる。